

【特別企画】

画論 20th The Best Image2012 受賞施設紹介

画論 20th The Best Image2012

Aquilion ONE 心大血管部門 最優秀賞受賞施設

NTT 東日本札幌病院 様



右が八十嶋さん（画論表彰式）

受賞者 : NTT 東日本札幌病院 八十嶋 伸敏

担当営業 : 東芝メディカルシステムズ（株）札幌支店 永田 篤生（1981年入社）

<担当営業から>

今回、私の担当施設である NTT 東日本札幌病院様が画論 20th The Best Image 2012 で Aquilion ONE の心大血管部門で最優秀賞を受賞されました。

NTT 東日本札幌病院様は、画論に関心が高く現場の技師の方々が毎年応募していただき、しかも Aquilion ONE 部門ができた 2009 年から、2010 年、2011 年と全て受賞（優秀賞）しており、今回も結果を楽しみにしていました。

受賞式当日は、私も同行していて発表とともに喜びが全身を貫き自分のことの様に感動しました。

営業をしていて、嬉しい事は商談が取れた瞬間よりも、納入後にユーザー様と共に最善の状態を作り上げて「東芝を選定して良かった」と言われる一言が聞けた時です。

2011 年の画論は超音波部門で最優秀賞を受賞、今回、CT 部門最優秀賞を受賞と部門は違いますが二年連続最優秀賞を受賞され、喜びの中にある NTT 東日本病院の八十嶋様を訪ね、インタビューをしてきましたので、北海道 CT 遠友会 ser 会の皆様にご紹介致します。

<インタビュー>

➤ 八十嶋様の略歴を教えてください。

1996 年に北海道大学医療技術短期大学部診療放射線技術学を卒業し、JA 北海道厚生連札幌厚生病院、伏見啓明整形外科を経て 2004 年に NTT 東日本札幌病院 放射線科入社・配属され現在に至ります。

➤ 病院の紹介をして下さい。

301 床の急性期病院で、NTT が経営母体なので職員はみんな NTT 社員となります。私の正式な所属は、NTT 東日本 総務人事部 医療・健康管理センター札幌病院 放射線科です。

診療放射線技師は 15 名、その内女性は 6 名です。CT 室は 5 名の技師で CT2 台、MRI1 台、3D 処理を担当しています。

CTの検査数は、1日当たり平均65件程度で冠動脈CTは昨年1年で760件行いました。

➤ **装置導入の経緯を教えてください。**

2009年のCT更新に向けて2007年から準備を始めました。まずは情報収集からはじめました。

当時は江戸幕府へ電信機を献納したドイツのメーカーの2管球装置が2005年に発売されていましたが、重量が重戦車並みに重く床が持つかどうか・・・

さらに2009年に128スライスの装置を発売。名前のとおりフラッシュのごとく一瞬で撮れるがこれまた重たい、実効エネルギーが心配・・・

シェーバーで有名なオランダのメーカーは2008年に256列装置を発売しており、いろいろ考えられて作られており基本性能は高そうだが、納入先が非常に少なく情報が少ない。チルト機能もほしいなあ・・・

ミルウォーキーに本社を置く人工ダイヤを初めて作ったメーカーは、ガーネットと同じ分子構造体のシンチレータを装備する装置を発売予定でしたが、64列だけでも価格がプレミアム、さらに更新時期に間に合うか・・・

国産初のX線管を製造したメーカーがLeading Innovation制定の次の年に320列装置を発売、う～ん、価格もさすがにフラッグシップ・・・
というような状況でした。

2008年時点で札幌市内に10台以上の64列装置が稼動もしくは予定であり、同じものを導入するのともという考えが当時の技師長の頭にありました。

そのような中、インパクトがあったのがAquilion ONEでした。1beat scan、心臓が1beatで撮れる。この言葉は衝撃的で循環器内科の医師が装置導入に賛同してくれました。医師だけでなく患者さんにもインパクトを与えることができる、これが機種決定の決め手でした。

後は予算ということでしたが、内部留保に規制のある当社ではCMを見ることで景気がわかるとまことしやかに囁かれていました。当時はイチロー、新垣結衣、スマップと有名人が出演し放映回数も多かったことから、Aquilion ONE導入も何となくうなずけます。

➤ **画論に応募されたきっかけは何ですか？**

論文や学会発表のように崇高な目的に向かって努力を続け、世間に発表することの大事さを感じながらも、もう少し気軽に創意工夫を発表し評価されることを、論文や学会発表の前段階に経験しておいた方がよいのではと考えたのがきっかけです。

そのせいもあり導入した年から毎年、CT担当者は1題応募するようにしています。

- **画論に応募された症例（症例名：igG4 関連冠動脈周囲炎）について、工夫された点、苦勞された点などあれば教えてください。**

撮影技術的に工夫した点というのはありません。AIDR 3D や 100 列ヘリカルモードなどよい機能が標準搭載されているので使いました。強いて挙げれば病態にあわせて撮影を追加したことと、定量評価で治療効果をわかりやすくしてみたところです。

- **受賞が決まった時のご感想は？**

「えっ」っていう感じでした。ディスカッションのときから、技師の立場から見て私の中では高瀬クリニックの松谷さんが選ばれると思っていました。

でも、隣にいた鈴木技師長の顔を見たら「あなたの部下、やりましたよ！」という気持ちになりました。

- **画論 2012 に参加された感想があれば教えてください。**

東京国際フォーラム、いい会場でした！東芝の方たちとてもフレンドリーでお祭りのような賑やかな感じでした。行く価値があると思いました。また、特別講演もとても面白かったです。DVD にしてください！

- **この様なイベントを行うことについてどう思われますか？**

学会では発表したり聞いたりすることで自分の立ち居地を知ることができますが、直接的に評価されることは少ないですよ。でも、画論は応募することで評価され、上位入賞すると審査員から直接評価をいただけます。こういった機会は貴重だと思います。入賞できてもできなくてもまた来年がんばろうという気持ちになります。

そのがんばりは、検査一つ一つに向かう姿勢を変えていると思います。来年、入賞するためにこの検査を良いものにする、それは医療人としての方向性は違っているかもしれませんが、結果を良いものにするということでは患者さんのためになり間違っていないと思います。

日々漫然と検査を行ってしまいそうな気持ちに喝をいれ、病気に向き合う気持ちを養ってくれるのが画論のよいところだと思います。

- **最後に東芝メディカルシステムズに期待することがあれば教えてください。**

これからもユーザーの意見に耳を傾けてくれるメーカーであることをこれからも続けてください。

私たちが発する情報を読み解くことが(Reading information)、Leading Innovationにつながるかもしれませんよ。

最後に北海道 CT 遠友 ser 会の発足をお祝いするとともに、私にこのような機会を与えてくださった北海道 CT 遠友 ser 会の幹事の皆様、東芝メディカル関係者の方々に感謝いたします。